図書館だより

市立図書館

こどもの読書週間・2015 4/23～5/12

◆第57回子どもの読書週間

【期間】 4月23日（木）～5月12日（火）

【標語】 本はキラキラ万華鏡

幼い頃から本に親しみ、読書の喜びや楽しみを知ることは、非常に大切です。

図書館では、少しでも多くの本に親しんでもらおうと本の購入を予定しています。利用者の希望の本も受け付けていますので、お申し込みください。

読書週間には次のような取り組みを行います。

本館『きっとあるキミの心にひびく本』の展示・クイズ

香北分館 児童が作った本の帯と本を展示

物部分館 世界の本を展示

◆第二次香美市子ども読書活動推進計画

子どもの読書活動推進のため、平成13年に**子どもの読書活動の推進に関する法律**が施行されました。この法律では、全ての子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、環境づくりを進めなければならないと定められています。

この法律に基づき、平成22年度に**香美市子ども読書活動推進計画**（第一次計画）を策定しました。この計画のもと、家庭や地域、学校、図書館等が連携し、本に親しむ環境づくり、読書ボランティアと協働した主催事業、子ども司書養成講座などの取り組みを進めてきました。一定の成果は得られましたが、資料の充実や、小学校低学年で増加してきた読書量や本への興味を、高学年、中学生にどのようにつなげていけばいいかなど、さまざまな課題も明らかになりました。

このたび、第一次計画の成果と課題、情勢の変化を踏まえ、第二次計画が策定されました。家庭や地域、学校、保育所、幼稚園、そして図書館が連携し、子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

Pick Up

池上彰が読む イスラム世界

池上彰　著

イスラムには世界の問題を読み解くカギがある！イスラム教の基本からアラブの春まで、イスラム世界を理解するための知識と最新ニュースの解説。

絶唱

湊かなえ 著

『死』に打ちのめされた彼女たちがたどり着いた場所は、太平洋に浮かぶ南の島、トンガ王国。そこで生まれたそれぞれの『希望』のかたちとは？

火花

又吉直樹 著

奇想の天才で人間味あふれる神谷、彼を師と慕う後輩徳永。笑いとは何か、生きることとは何なのか。芸人又吉が描く切なくも優しいデビュー作品。

吉井勇記念館だより

企画展　吉井勇の土佐百景

吉井勇は隠棲の地、猪野々だけでなく、高知のさまざまな場所を訪れ、その情景を短歌に詠んでいます。それらの短歌は、高知県内各地に歌碑として建立され、その土地の風景とともに見ることができます。その数は、県内6市町村、26基に及びます。

本展では、これらの歌碑の拓本や来訪先の風景写真、収蔵の直筆作品を展示し、勇と土佐のつながりについて紹介します。

【期間】 4月29日（水）～7月26日（日）

猪野々の歌碑と里めぐり～韮生路の歌碑と渓鬼荘～

吉井勇の歌碑がたつ香北町猪野々を巡るウォーキングイベントを開催します。

若葉の季節、棚田の広がる風景の中を歩き、勇の短歌に触れながら、彼が隠棲し癒やされた猪野々の魅力を感じてください。

【日時】 5月23日（土）9時45分集合

【定員】 20名　**※要予約**

【参加費】 一人2千円

※昼食、記念館入館料含む

【締切日】 5月15日（金）

【行程】 10時大久保（風のほこら）ウォーキングスタート（約3.5キロ）→12時記念館着（猪野々集会所で昼食・休憩）→13時記念館と渓鬼荘を見学→14時記念館から新神賀橋までウォーキング（勇ゆかりのスポットを散策・往復約2キロ）→16時記念館で解散

【送迎】 香美市役所本庁舎より、JR美良布駅経由の無料送迎バスあり（予約時にお申し付けください）

行き　本庁舎9時発
美良布駅前9時20分

帰り　記念館16時15分発
美良布駅経由本庁舎

■問い合わせ先　吉井勇記念館　☎58・2220

香美市文芸　風の流れ

【短歌】

岡崎　桜雲　選

拾い来て庭先に根付く花カンナありがとうって真紅に燃える
大いなる手蔓を持ちて建てしとふ入母屋の家に草生ひ生ひて
合歓の花やがてウツギにその後は漆紅葉の赤に酔ふ途
剃り置きし畑の草の根付くあり待ち侘びし春すぐそこに来て
夕刻のダム湖にあがる水しぶき鴨数十羽滑りおり来る
生かされて来し方想ふ陽だまりに犬と戯むる今日の平安
越して来し荷物の整理にわが倦めば日の温かく靴を履きをり
日向ぼこ媼は来し方さらけだし笑みて話せる齢となりたり
さくら木とふ屋号の旧家継ぎし友の消息は朝刊の黒枠広告
さくらさくらわが山の瀬に咲くさくら今年も咲きしか年重ねけり
夕されば代掻き田にぞ家々のともしび映るふるさとの景
何時しかに卒寿を生きて趣味に凝る葡萄・桃作り俳句と短歌
夫築きし石垣確と遺りいてきりん草只はびこりて咲く
散る桜思ひ出も散る遠霞み九十余年はけむる彼方に
水仙花岸辺の道に競い咲くしばし佇む清き香りに
有りし日の父の言葉が胸にしむ他人を信じて強く生きよと
ふるさとの家路に祖母の面影をもとめて濡るる花におく露
授かりし宝の双子すくすくと庭に花桃記念の植樹
卵かけごはんの旨し生みたてを持ちくれし友の心を思う
石垣の黄色い野菊ひとつ折り匂い嗅ぎつつ小径をたどる
降る雨に急ぎ花芽を持ち上げて牡丹は一夜に色深めたり
鼻に詰めして宿題をしてをりぬ小6の孫は花粉症なり

★おわびと訂正…4月号の風の流れにある「子庇をはしり雨音春の雪」また、「うたた寝の姿の舟漕ぐ春炬燵」という俳句は、正しくは「子庇をはしり雨音春の雷」です。おわびして訂正します。

岡本　初美
小原　子川
森本　幸美
小松　隆之
楮佐古きよ
都築　忠義
岡村　敏子
盛岡　雛子
大岸由起子
坂上のぶ子
山﨑　貴子
高野　和一
岡田美代子
韮生　灯
山本登美子
高田　清子
公文　千恵
谷内　務
吉本　悦子
松中　賀代
武内　弘子
古川　安子

風に乗り遠く近くに子らの声アンパンマンのいるまちだから
ウォーキングしながら計算すれば痴呆なしと学びて吾は毎日なしおり
遠く住む友は傘寿をむかへたり健やかなれと花カード送る
昨日とはうって変って日本晴れ建設すすむ新しき庁舎
職ゆゑと人らなぐさめくるるれど丸くなりし背は亡き母ほうふつ
余寒圧し畑打ちをれば近寄りて何を播くかと人ら問ひ過ぐ
窓の下に朝みる椰子のなびく葉にひととき雨後の光かがよふ
七草にふきのとうなど入れてみる丸まる太って庭にいくつか
小さくて畑に捨てし里芋が二年で育ち今日の食卓
もう少し眠ってゐたいと目をとぢる夢とうつつのこのこころよさ
わづかの金投げ入れて少年ぶつぶつと祈りは長し吾の隣りで
退職の花束の中ブルースター胸に広がる思いは今も
虹ひくく山にかかりて時雨おりふるさとに続く道ある辺り
うらみちの斜面に数多の仏あり廃仏毀釈の捨てられしもの
春分の日もやうやくに暮れむとす先祖供養の叶ひし安堵
播き餌して手にのるほどに懐き寄り庭に遊べる爺と山雀
浴室より聞こえる孫のはしゃぐ声今日も一日幸いなりしや
朝刊に大きく報ずるテロ事件恐れ悲しみ世界に広がる
ドバイより娘の土産なり舞ふがにもアラブ書道の花鳥風月
咲き初めし紅梅の香に誘われ目白来たりて花をついばむ
雨の日は友が描いた小さな絵ながめて午後の心落ち着く
胎内に出征を送りし我は今古稀に入りたり父を見ぬまま
七十年戦捨てたる国にして花咲きみつる春の尊し

大石　綏子
門田　明子
小松　禮子
林田　幸子
竹村　咲子
公文　正子
小松もとみ
伊藤　清子
溝渕千都子
佐竹　玲子
都築　初代
古谷　由美
佐々木真理
宮地　亀好
野島　富石
岩井　純子
中村　荷香
野村　典子
町　耿子
明石　敬恵
吉川　恵
刈谷美代子
岡崎　桜雲

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）FAX53－5958